

資料

包括的なインタープリテーション計画

国立公園局

Comprehensive Interpretive Planning

National Park Service

「インタープリテーションと教育のガイドライン」

<もくじ>

まえがき

序文

方針 (Policy)

インタープリテーション計画の基本的な原則

包括的なインタープリテーション計画

セクションI. 長期的なインタープリテーション計画

パート1. 基本的な項目

ねらいと重要性

テーマ

運営目的

来訪者が体験すべきこと

インタープリテーションを左右する課題や影響

来訪者分析

既存のインタープリテーションの状況

パート2. 将来のインタープリテーション計画

パーソナル・サービス

ノン・パーソナル・サービス
パートナーシップ
必要な蔵書や収蔵品
必要な調査
必要なスタッフ
インタープリテーション・プログラムの費用
実施計画

パート3. 付録

セクションII. 年間実施計画

- パート1. 年間実施計画の要約
- パート2. 現行プログラムの分析
- パート3. インタープリテーションが直面する運営上の課題
- パート4. 年間業務計画
- パート5. 各サービスの新しいプラン
- パート6. 実施計画の現状

セクションIII. インタープリテーションのデータベース

- パート1. 戦略プラン
- パート2. 公園に関する法律の歴史
- パート3. 年間メディア目録
- パート4. 来訪者調査データ
- パート5. 全国立公園のインタープリテーションに関する報告
- パート6. パーク・ボランティアに関する年間報告
- パート7. メディアに関する計画
- パート8. 公園に関する書籍一覧

インタープリティブの概念計画

責任について

誰がインタープリテーション計画をするのか？

資金について

認可について

まえがき

包括的なインタープリテーション計画*

* Comprehensive を「包括的な」、Interpretive Planning を「インタープリテーション計画」と訳しています。

インタープリテーションとは、「選ぶ」ことだと言えます。私たちはどんな話を、誰に、どのように語るかを選びますが、それらを簡単に選べることはめったにありません。しかし、効果的な計画・システムがあれば意志決定の際の手引きとなり、「正しいことを行なう」のに役立ちます。

1995年に、国立公園局はインタープリテーションと教育のために計画システムを一つにしました。このシステムは効果的なインタープリテーション計画の要素を用い、初めて1つの形としてまとめられたものです。同時に、インタープリテーション計画についての責任は公園局から各公園へと移行していきました。

60年代から70年代は、国立公園局において、インタープリテーションのメディア開発の「全盛期」だったと言ってもいいでしょう。この期間に、国立公園局は多くの新しいビジターセンターを建設するとともに、新しい展示、映像、聴覚プログラム、野外解説板、出版物を製作し、歴史的に重要な場所を整備しました。

こうした新しい開発を通して、計画とデザインは専門性が向上し、それまで個々の公園の責任において行なわれていたインタープリテーション計画が統括されました。開発資金が投入されて作成された「インタープリテーションに関する基本計画書」(Interpretive Prospectus)は、インタープリテーションの施設やメディアのデザイン・製作に、優れた方向性を与えました。しかしながら、この計画は施設や設備の改善を重要視していたため、パーソナル・サービス(公園のスタッフが直接提供するサービス)についての計画は、決められた型のない活動として別に各公園に任されることになりました。

建国200年後にあたる70年代後半は財政が苦しく、国立公園局の管理者たちは当時行われていたインタープリテーション・プログラムの妥当性を問い直すようになりました。インタープリターが「娯楽」や環境教育といったさらに大きな活動を行うために、公園の基本的な使命からは外れた活動をしていると考えている管理者もいました。インタープリテーション・プログラムがどのように公園の基本目的を支持しているかを管理者に示すことが求められるようになりました。

この「基本に立ち返る」傾向の結果、新しい計画作成様式である、「インタープリテーション

の年間実施計画書」(Annual Statement for Interpretation)が作られました。この様式により、プログラムとサービスの提供はインタープリテーションの基本的テーマおよび公園の運営目的とつながりを持つようになりました。「基本計画書」と違って、「年間実施計画書」は各公園レベルで制作されましたが、「基本計画書」と同様に、地方のディレクターの承認が必要でした。

80年代の終わり頃には、インタープリテーション計画は2つの異なる経路をとるようになりました。一つは「基本計画書」により、開発計画をたてるものであり、もう一つは「年間実施計画書」により年間運営計画をたてるものです。開発資金の不足が原因となって「基本計画書」は時代遅れのビジョンを示すおそれがありました。「年間実施計画書」は各公園で独自に書くことができるものですが、主に年間のパーソナル・サービスに焦点があてられていました。つまり、これらはより大きなビジョンにつなげて考えられたものではありませんでした。「年間実施計画書」の様式はややこしく、作成に時間がかかるため、多くの公園では次第に使われなくなりました。

1994年、インタープリテーションに関するマネージャー、スーパーバイザー、プランナーのチームが「インタープリテーションとビジターサービスのガイドライン：NPS-6」に追加するための計画作成に関する新しい章の制作に取りかかり始め、1995年の9月には追加資料として全国立公園に配布されました。表紙の記述では以下のように謳われています。

「このシステムの構成要素のほとんどは、長年にわたるインタープリテーション計画によってその効果が証明されてきたものであるが、長期および短期的な計画の両方を含んだ包括的なアプローチとしてまとめられることはなかった。この資料の目的は、国立公園のインタープリテーションに長期的なビジョンを創設し、インタープリテーションの年間実施計画書の制作プロセスを簡略化することである。」

「包括的なインタープリテーション計画」のプロセスは、現在ディレクターズ・オーダー（局長指示書）項目6に記載され、インタープリテーションの基本的な計画要素となっています。「包括的なインタープリテーション計画」は、何かについて決定するときに参照する資料であり、それぞれの公園の目的は何であるのか、観衆は誰なのか、どのメディア（情報伝達の媒体）を組み合わせ使用し、どのような人的サービスを提供すべきかについて決める際に役立ちます。成果物は計画そのものではなく、運営目的を達成し、適切なサービスを提供しながら来訪者の体験の質を高めるような、効果的で能率的なインタープリテーション・プログラムです。

インタープリテーション計画の制作は、現在では各公園の最高責任者の責任の元で行なわれています。国立公園局全体の計画作成リストに名前を挙げられて機会を待たなくても、サービスセンターや地域のオフィス、システムサポートオフィス、他の公園、民営の委託業者など、より広範な情報源からインタープリテーション計画について模索する責任と機会を公園ごとに持てる

ようになりました。

ディレクターズ・オーダー（局長指示書）項目6に定義されている「包括的なインタープリテーション計画」は特定の要素で構成されるものではありませんが、各公園のニーズや状況、現状に合わせて考えられた計画であればそれは優れた計画であると明確にしておく必要はありません。「包括的なインタープリテーション計画」はそのままだればよい手順などではなく、効果的で能率的な目標達成を目指す計画のためのガイドラインです。各公園は、多様な情報源を利用して計画を達成する権限を与えられたように、それぞれのニーズに「最も適した」計画を模索する責任も与えられました。

「包括的なインタープリテーション計画」の核心は、「長期的なインタープリテーション計画」にあります。およそすべての項目はこの長期計画に関わるものです。長期計画は全体的なビジョンと、公園の長期的な（5～10年の）インタープリテーションの達成目標を明確にします。長期計画を明確にする過程で、焦点が絞られた現実的な戦略が開発され、長期計画の目標達成に向けての方法が探り出されます。また年ごとに割りふられた達成可能な段階が「年間実施計画」に投影されます。年間実施計画の作成は、長期計画の中で特定の目標がすでに明確にされているので、それを年ごとに割りふる作業となり、ずっと容易になりました。「包括的なインタープリテーション計画」の最後の1節はインタープリテーションに関するデータベースで、前の2節を制作するにあたって必要とされる情報源を編集したものです。視聴覚設備や情報伝達媒体（メディア）の目録、国立公園局の戦略計画、権利や権限に関する法律、来訪者分析、報告書、参考文献の目録、その他の基本的な情報が含まれます。

各公園は、「包括的なインタープリテーション計画」を状況の変化に応じて必要なだけ更新すべきです。公園管理を進めるにあたって新しい試みを行ったり、新しい課題を扱い、発展させるべきものです。より多くの責任を各公園レベルにあてる国立公園局の運営理念により、各公園のスタッフはインタープリテーション計画を時代に合わせて更新しなければなりません。

序 文

インタープリテーションの計画作成は、その計画を実践することで、来訪者と公園資源との間に意味のあるつながりを持たせ、インタープリテーションや教育プログラムの運営目的を達成させる戦略的な過程と言えます。インタープリテーション計画は、公園の目的や重要性、テーマを最も効率よく効果的に来訪者に伝えられるように、インタープリテーションのあらゆるニーズを包括的に分析し、インタープリテーション活動、施設、プログラムについて大まかな方針を決定します。インタープリテーション計画とは、どのようにしたら理想的な体験を来訪者に提供でき

るかを定める目的に基づいた過程です。また、公園資源を保護、保存しながら、来訪者一人一人が資源の持つ意味や重要性を感情的にも知的にも認識できる機会を来訪者に与えるものです。

方針 Policy

インタープリテーション計画は、「公園システム計画」と「インタープリテーションと教育」の両方において国立公園局運営方針の中で述べられています。方針では、インタープリテーション計画が国立公園局の計画作成において極めて重要な構成要素であることを明示しています。方針によると、戦略計画は公園の重要性を明らかにし、インタープリテーションの目的も含めた運営目的を設定します。これらに基づいて、「全体運営計画」(General Management Plan)では、公園資源のあるべき状態や、来訪者が体験すべきこと、他に必要な開発などが明確にされます。「包括的なインタープリテーション計画」が含まれた「実施計画」には、「全体運営計画」の概念を実践するのに必要なことが詳細に記されています。インタープリテーション計画は、企画前計画、特別資源の研究、戦略計画、価値分析、「全体運営計画」で述べられていることの中でも極めて重要な要素です。

なぜインタープリテーション計画は重要なのでしょうか？ インタープリテーション計画は、公園内で行なわれるインタープリテーションの運営活動の基礎となります。また、重要な来訪者体験が何であるかを明らかにし、そのような体験を促す方法を示すものです。運営方針の第7章「インタープリテーションと教育」には次のように書かれています。

「各公園が持っている運営計画や包括的なインタープリテーション計画、その他のインタープリテーションに関する文献は、重要性やテーマ、来訪者の利用の仕方、公園資源の本来の姿、そして公園の運営目的などの基準に基づいて、公園の中と外で行なわれるインタープリテーション活動のバランスをとります。」

インタープリテーション計画の基本的な原則

インタープリテーション計画は、目的に基づいて作られます。目的に基づく計画作りとは、段階的に設定された目的を基にして計画を作成していくものであり、まず 1916 年に制定されたオーガニックアクトの目的に始まり、次に地域ごとの法律に基づき、最後に戦略計画に基づきます。そして戦略計画では、公園、公園資源、人々の利用に関する全体像や展望が決められます。計画作成に方向を与える目的 (goal) は、公園となる場所の目標 (purpose) と重要性を明らかにすることで明確になります。目標 (purpose) は、公園の法令から決められることが多く、「なぜ」

その公園が設定されたのか、今日における公園の目標は何かを定義します。公園の重要性には、その場所とそこに残された資源の重要性や特色が述べられます。

インタープリテーション計画は、来訪者が様々なことを体験する機会について明確にするものです。対象者には公園を訪れた人も訪れていない人も含まれます。来訪者の体験には、来訪者が行うこと、感じること、学ぶことの全てが含まれ、これには知識、態度、行動、価値観が含まれます。来訪者の公園体験は公園来訪以前から持っている経験に影響を受け、そして来訪後の行動に影響を与えます。

インタープリテーション計画は、公園の自然を保護・保全すると同時に、公園の目的や重要性、「人を動かさずにおかない魅力的な物語」やテーマ、価値について、来訪者に最も効果的に伝えるための適切なインタープリティブ・サービス、施設、プログラム、使うメディアを決定します。しっかりした根拠のあるインタープリテーション計画は、適切な多様な体験を提供し、そうした体験を提供するための様々な方法を推奨し、その方法が実施しやすいことを保証します。インタープリテーション計画の成果は、公園についての情報伝達がいかに有効に機能するかにあります。より広範に、より多くの考えや意義、価値感を自然そのものと関連を持たせながら伝えることができるか、また自然を保護することと来訪者が公園を利用し楽しむことの間でいかにバランスを取るか、という点にあります。

インタープリテーションの計画作成に能力を発揮してきた人は、インタープリテーション計画をうまく進めていくことができるでしょう。インタープリテーション計画の原理と基準を参照し、常に専門のプランナーの指導を受けながら、公園のスタッフが計画を作成していきます。

インタープリテーション計画には柔軟性があり、常に作成過程にあり、学際的であり、クライアントのニーズに応えるものであり、開発や問題の点から作成されるのではなく管理者側の立場から作成されます。計画は、長期的な方向性を定め、短期的な問題を解消し、年間プログラムを分析するための基盤を確立します。

インタープリテーション計画の作成過程は、公園の敷地を超え、地元のコミュニティ、地域に根ざしたパートナーシップ、専門家のみならず、利権者や協力団体などを連帯させていき、つまり、持続可能性の原則に沿うものでもあります。

インタープリテーション計画は、最新の研究を基に決断されます。パーソナル・サービス、ノン・パーソナル・サービスに関する事項の決定は、しっかりした専門知識を持った人によって、来訪者の期待や人口統計学、変化する社会の傾向とニーズに関する研究を基に行なわれます。

インタープリテーション計画は、最新で適切なインタープリテーションの手法とサービスに関する徹底的な理解に基づき、教育哲学やプログラムの計画に関する研究をした上で書き起こされます。

インタープリテーション計画には、実践のための現実的な戦略、および資金調達や運営に関する代案も含まれます。

包括的なインタープリテーション計画

包括的なインタープリテーション計画は、公園のインタープリテーションに関する事柄を決定するのに役立つ基盤と、全体的なビジョンを定めます。メディアやパーソナル・サービスなどを全て含んだ、長期的、短期的な視点を提供するものです。情報を蓄積したものではなく、公園のインタープリテーションの将来のための、しっかりとした青写真なのです。「長期的なインタープリテーション計画」と「年間実施計画」、そして「インタープリテーションのデータベース」の3つの基本的な項目で構成されます。

「包括的なインタープリテーション計画」の3つの項目について以下に書かれています。

セクションⅠ：長期的インタープリテーション計画 (Long-Range Interpretive Planning: LRIP)

将来のインタープリテーション・プログラムの適切な開発の手引きとなる基本的な情報と、インタープリテーション・プログラムの長期的なビジョン、そしてそれを実現するために必要な活動について記載されています。

セクションⅡ：年間実施計画(Annual Implementation Plan :AIP)

インタープリテーション・プログラムの1年間の運営計画について、その年はどのようなインタープリテーション活動を一般の人々に提供するのかが、詳細な計画が示されます。予算や必要なスタッフについての情報、活動や新しい試み、前年のプログラムとの比較などが含まれます。

セクションⅢ：インタープリテーション・データベース (Interpretive Database: ID)

インタープリテーション・プログラムに役立つ参考資料が含まれます。(公園蔵書リスト、資金調達提案書、様々なレポートなど)

セクションI: 長期的インタープリテーション計画

長期的なインタープリテーション計画は、インタープリテーションと教育の将来的なビジョンを示します。5年から10年間の計画が提案されます。計画が有効な期間は各公園のニーズや状況によって異なるため、ニーズや状況に合わせて、必要に応じて更新する必要があります。長期的計画にはパーソナル・サービスとメディアについて書かれ、インタープリテーション及び教育計画の立案に長けたファシリテーターを介して公園のスタッフ、パートナーやコミュニティが作成します。年間実施計画の基礎要素を示し、他の既存の計画書ともつりあいのとれたものにするべきです。

公園のスタッフやパートナー、計画作成のファシリテーターの役割は、計画立案を解する前の「プロジェクト契約」の段階で確認されます。役割は公園スタッフ、ファシリテーターの状況や能力によって様々なものとなります。

パート1. 基本的な項目

目標 (Purpose) と重要性: 公園の法規的な目標について簡単に記述し、公園全体の重要性についても述べます。これらの記述は公園の立法の歴史や戦略計画に基づきます。

テーマ: テーマは、公園について人々に伝えられるべき、最も重要な知識や概念を定義します。

公園資源に備わった有形、無形の意義や普遍的な概念を伝えるものです。明解な言葉で表され（通常1、2文で表現されます）、主題と副題に分けられることもあります。意味を明確にするのに役立つのであれば、さらに情報を付け加えてもよいでしょう。これらの定義によって、公園の資源はより大きな過程やシステム、考え、価値観などつながりを持つようになります。テーマはまた、公園が示す教育的なメッセージの核となるものを定義するのに使われるべきです。テーマはインタープリテーション活動や教育プログラムの基盤となります。

運営目的: 目的(goal)は、インタープリテーション活動や教育プログラムを提供するにあたっての運営面での計画を述べたものです。目的は公園の戦略計画から出てきます。地元からの支持の強化、将来の支援者の獲得、生涯学習の機会提供などといった、インタープリテーションや教育プログラムから得られる特定の成果を示した達成目標(objectives)を含むこともあります。

望ましい来訪者の体験: インタープリテーションに関連する来訪者の体験を述べたものであり、前述の目標と重要性・テーマ・運営目的などに基づいて、インタープリテーション活動がどの

よう到来訪者の身体的、知的、情緒的体験を高めるかを定義します。「来訪者体験の目標」は、どのような機会を人々に提供し、公園体験の結果、インタープリテーションが人々の考え方や感じ方、行動をどのように変化させられるかを提案します。また教育プログラムについては、教育プログラムに参加すると、指導員や教員、生徒たちがどのような体験をするかを述べます。

インタープリテーションを左右する課題や影響： 国立公園局全体に影響を与える長期的な提案、公園内外からの影響や機会、自然資源に関する課題、内在的な課題など、インタープリテーションと教育を左右する項目が含まれます。

来訪者分析： 来訪者の実体とニーズについて大まかに説明したもので、実際到来訪した人と来訪する見込みのある人、公園内外で情報を聞く人、教育プログラムに参加する人などを含みます。可能な場合は、この分析は計画的な調査に基づいて行なわれるべきです。

既存のインタープリテーションの状況： パーソナル・サービス（公園のスタッフが直接提供するサービス）やメディアの開発、施設に関する提案など、将来発展させるとよい点を明らかにします。公園にすでにあるメディアは、「全体的なメディア目録データベース・システム」に登録され、更新されるべきであり、「長期的なインタープリテーション計画」には記載されません。

パート 2. 将来のインタープリテーション計画

公園のテーマを伝え、来訪者に特定の体験をさせるために必要な活動（パーソナル、ノン・パーソナルの両方を含む）と施設について説明します。ここで扱われる項目は「パート 1. 基本的な項目」で扱った目的とビジョンに基づきます。全ての計画作成において、教育プログラムの参加者も含めた多様な公園来訪者について考慮する必要があります。公園における将来のインタープリテーション活動を想定し、それらを達成していくためには幅広いアプローチがあります。

将来のインタープリテーション活動に関する記述は全て、以下の項目を考慮する必要があります。

パーソナル・サービス(公園のスタッフが直接提供するサービス)： 来訪者の体験全体に意味や重要性を与えるにあたって、パーソナル・サービスが担う役割について説明します。パーソナル・サービスは、公園を訪れる前に人を介して公園とのつながりを実感できる、公園外(オフ・

サイト)での教育活動にも適しています。教育を目的とした施設やメディアの利用(教育センター、滞在型プログラム、インターネットを活用した公園散策など)の可能性については、この項目で検討すべきです。

ノン・パーソナル・サービス(公園のスタッフが直接提供しないサービス): 展示や野外解説板、出版物、映像プログラム、マスメディア、電子メディア、学習ガイド、ワークブック、教育キット、貸し出し用展示(traveling exhibits)など、インタープリテーション的で教育的なメディアの必要性について調べます。これには、予算案(総経費と年間の物価上昇分を調整したもの)とメディアの将来的なニーズが含まれます。メディアは、多様な人々のニーズに合うように様々な視点を持つものが導入されるべきで、評価もそれに合わせて行われるべきです。

パートナーシップ: インタープリテーション活動の提供に関与しているパートナーを明確にし、それらの役割を特定します。パートナーとは、協力関係にある法人などの団体、友の会、特権保持者(コンセッショナー)、他の行政機関、学校、その他の教育関係施設などを指します。私営のセクター主導で運営されるサービスや施設なども含み、パートナーシップを結ぶことにより得られる利益を受けられようにするべきです。

必要な書籍や蔵書: この計画の実行を達成させるのに役立つ書籍のニーズや、蔵書の利用方法などを示します。

必要な調査: この計画の実行を支援するために必要な調査を示します。調査では公園にある「まだ扱われていない物語」(untold stories)を見つけるべきです。インタープリター、教育者、歴史家、民族誌学者、科学者、公園の他部門との協力が不可欠です。来訪者の体験を分析したり、既存のメディアの効果を評価したり、新しく導入されたメディアの評価も重要です。

必要なスタッフ: 「インタープリテーションの開発プログラム」に関わるスタッフを含め、将来的なスタッフ配置と人材育成のニーズを明記します。

インタープリテーション活動の費用: パーソナル、ノン・パーソナル・プログラムの明確な分析に基づいて算出され、この分析により年間予算と考案予算を算出しやすくなります。また代替運営案、資金戦略、プロジェクトの資金を調達するための方策も明らかにします。

実施計画：

長期的なインタープリテーション計画を実施するために必要な活動が一覧にされ、責任の割り当てと目標とする日程が決められます。ここは非常に重要な箇所であり、5年から10年先の「年間実施計画」はこの「長期的インタープリテーション計画」の活動概要を基に立てられます。

パート3. 付録

「長期的インタープリテーション計画」の立案に際して何らかの形で参考にされた文献のみ記載します。その他のレポート、表、人口統計、学校に関する情報、統計、その他インタープリテーションに関する資料は、セクションⅢのインタープリテーションのデータベースに記載または引用します。

セクションⅡ. 年間実施計画

「長期的なインタープリテーション計画」に基づいて立てられる、実施活動に関する書類で、公園の予算運用計画の周期に合わせて立てられます。この計画は概要のみを記し、以下の項目を含む必要があります。

パート1. 年間計画の要約

公園のインタープリテーション及び教育プログラムの概要は次年度に向けて用意されるべきです。プログラムや他の活動の概要を表し、長さは1ページ以下にまとめます。

パート2. 現在のプログラムの分析

前年度の成功や失敗は、次年度の計画の基礎として分析します。費用、サービスを受けた人の数、達成された目標などを記し、「全体的なインタープリテーションに関する報告」(10-769)のために収集したデータを利用した分析を記載してもよいでしょう。

パート3. インタープリテーションが直面する運営上の課題

例えば自然資源の管理、維持管理、安全対策、記念行事、地元の学校カリキュラムの変更などといった、次年度のインタープリテーションで扱うべき課題や、関心を払うべき項目について簡単な要約を記載します。

パート4. 年間業務計画

この項目は、公園ごとに異なるでしょう。年度ごとの目的や業務計画を最高責任者 (Superintendent) に提出する公園課長 (park division chief) は多くいます。通常、業務計画には実施予定の活動内容、各活動の責任者、実施予定日などが含まれます。これは、「長期的なインタープリテーション計画」を年間業務に反映させる、重要な要素です。

パート 5. 新しい個々の活動計画

次年度に提供される予定の新しいインタープリテーション・プログラムの概要がここに記載されます。翌年にはこれらの計画はセクション III 「インタープリテーションのデータベース」に加えられます。「個々の活動計画」の様式を使ってもよく、新しく様式を作成してもよいでしょう。

パート 6. 実施計画の現状

これは「長期的なインタープリテーション計画」の中の「実施計画」を更新したもので、次年度はどの部分を達成するかを提示します。「年間実施計画」と「長期的なインタープリテーション計画」とを関連づける重要な項目です。

セクション III. インタープリテーションのデータベース

インタープリテーションのデータベースは計画作成や活動実施を行いやすくするために、計画や資料、目録などを編集して参考資料として一箇所にまとめたものです。公園スタッフは計画作成の初期段階で、まずインタープリテーションのデータベースを整理するとよいでしょう。

データベースには少なくとも以下の項目が含まれるべきです。

パート 1. 戦略プラン

国立公園局の現行の GPRA 戦略プランの書類

※翻訳者注：GPRA: Government Performance and Results Act 行政の実績と結果報告法。
1993 年にクリントン政権が規定した決議で、各官庁の活動目標と実績、結果を明示することを義務づけたもの。

パート 2. 公園に関する法律の歴史

公園認可の法律規定、大統領声明文、その他法律制定の歴史などの書類。

パート3．年間メディア目録

「国立公園のメディア目録データベース・システム」のうち、各公園のデータを印刷した書類で、インタープリテーションで扱うメディアの状態を表したもの。

パート4．来訪者調査データ

来訪者や公園利用に関して収集された調査情報の全て。教育プログラムに参加した教師、生徒、学校グループの数、人口統計データ、来訪者サービス・カード調査や来訪者サービス・プロジェクトの結果全て。

パート5．国立公園のインタープリテーションに関する報告

各年の計画に、「全体的なインタープリテーションに関する報告」(10-769)を入れる。

パート6．パーク・ボランティアに関する年間報告

各年の計画に、「パーク・ボランティアに関する年間報告」(10-150)を入れる。

パート7．メディアに関する計画

適用できるのであれば、各メディア（博物館展示、散策路沿いの展示、視聴覚設備、出版物など）に関する計画を参考資料に含めてもよい。

パート8．公園に関する書籍一覧

配属されたばかりのインタープリターにとって、公園について理解するために最も有用な書籍や情報源に関する目録。教育的なハンドブックや手引き、指導書を含む。

その他、インタープリテーションのデータベースに含めてもよい項目：

全体の運営プラン

ランドスケープ（風景）に関する文化的背景の報告

歴史的建造物に関する報告

インタープリテーションの概念計画

他の公園と同じテーマを持つ公園や他の行政機関と共同で運営されている公園、または複雑なテーマや多様な要素を持った広い公園では、インタープリテーションの概念計画を開発すること

もできます。これは、公園全体のテーマや目標、提供された来訪者体験を明らかにすることで、計画作成の成果を一つにするものです。こうした計画は、前述の基本方針や要素を取り入れながら、個々の公園の現状やニーズに合わせて検討されるべきでしょう。

責任について

インタープリテーション計画に関するリーダーシップを取り始めたのは、「インタープリテーションと教育・ワシントン事務所 (Washington Office of Interpretation and Education)」、およびハーパスフェリーセンターのインタープリテーション計画部門でした。この2つの官庁は、国立公園全体のインタープリテーション計画の方針とガイドラインに関する責任を負っています。一般に、来訪者の体験に関係する、あるいは影響を及ぼす全ての事柄の計画作成には、インタープリテーション計画が含まれます。全体の運営計画、実施前の企画、メディアに関する計画、インタープリテーション施設のデザインなどがそれで、「包括的なインタープリテーション計画」の中では適した項目に基づいて設定されます。

各公園は、様々な手段でそれぞれの「包括的なインタープリテーション計画」を達成する責任を負っています。そのためには公園のスタッフや地域の事務所、ハーパス・フェリー・センター、委託業者などが協力することになります。まず各公園のインタープリテーション部門の責任者が最高責任者に計画作成の必要性を証明することから始まります。「包括的なインタープリテーション計画」の認可は、公園の最高責任者の手に委ねられています。

「包括的なインタープリテーション計画」に関わる人の役割は、「プロジェクト契約 (Project Agreement)」によって決められます。「プロジェクト契約」は、計画作成にあたって重要な役割を担う人材の間で交わされる契約であり、何が、いつ、誰によって実施されるか、予算はどのくらいかなどを記載します。

誰がインタープリテーションの計画作成を行うのか？

インタープリターとしての経験を積んだインタープリテーション計画の作成者が、「包括的なインタープリテーション計画」の一連の過程を進めていきます。計画作成者は、インタープリテーション計画に関する能力と、チームをうまくまとめていく能力を十分に備えているべきであり、文才と問題解決能力、チーム・ビルディング能力、メディアの特性とパーソナル・サービス・プログラムに関する理解を持っている必要があります。国立公園局のインタープリテーション計画の作成者には、ハーパス・フェリー・センターのインタープリテーション計画部門のプランナー、地域やサポート・オフィス、委託業者、その他必要な技術を持っているプランナーが含まれます。

インタープリテーション計画の作成者は公園と協力して、次に示すような人材を含んだチームを選定します。インタープリテーションとその他の部門の公園スタッフ、他の公園のスタッフ、他の計画作成者やデザイナー、メディアの専門家、課題達成の専門家、教育関係者、コンサルタント、パートナー、一般市民など。

資金について

国立公園局にはインタープリテーション計画のための資金がないため、各公園で「包括的なインタープリテーション計画」に必要な経費の総額と資金源を明らかにします。

認可について

インタープリテーション部門の責任者は公園の最高責任者に「包括的なインタープリテーション計画」の認可を求めます。最高責任者が「包括的なインタープリテーション計画」の配布を決定します。